

# D-1 理論家政学の一試論

## 家政学原論研究 3

昭和女子大 原田 一

1. 家政学を理論家政学（ザインの科学）と家政史と実践家政学（ゾルレンの科学）に大別することができる。理論家政学を構成することは至難の業であるが、演者はその一つの試論を提供したいと思う。

2. 社会学・経済学・教育学は先進の社会科学なので、これを模範として構成を企てた。

3. (1) 科学は一定の理念（先験概念・指導概念）によって個々の事実を説明するものである。演者は、家政の指導概念を「家庭生活をとおしての文化価値の実現」と考える。そして生活とは人間の行為の総体を指し、「家庭人」を設定する。家庭の本質は育児であり母と子の集団が中心で父がこれに加わって寝食を共にするもので

あるが、現在では一つの社会制度であって、家庭人はここで、自然人、技術人、社会人、理知人として行動する。(2) 家庭生活では、飽和則、漸減則、分化則、経済則（能率則）、適応則、個性則、均衡則（配分則）等の一般法則が行なわれるが、家庭としては特に、家庭技能の社会移行則、核家族への移行則、家庭生活の周期則、家庭生活の封鎖則などの法則が行なわれる。(3) 家政学は以上のような法則的認識とともに類型的（理念型）認識が必要である。自然家族型、農業家族型（封建型）、商工家族型（市民型）等。(4) 理論家政学各論としては、家族論、育児論、家事技術論、家庭経営論、環境論。(5) 研究は論理的かつ実証的でなければならない。